

日本産科婦人科学会に登録された体外受精データから読み解く

日本の体外受精 治療の現状～卵巣刺激方法別にみた採卵成

績、及び妊娠成績の後方視的検討～に対するご協力のお願い

研究代表者 所属 医療法人 浅田レディースクリニック
職名 医師 氏名 齋藤 將也

このたび、日本産科婦人科学会データベース事業（生殖に関する諸登録）を用いた下記の医学系研究を、日本産科婦人科学会倫理委員会臨床研究審査小委員会の承認ならびに理事長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施しますので、ご協力をお願いいたします。

この研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を診療を受けた施設までお申し出下さいますようお願いいたします。

1 対象となる方

西暦 2007 年 1 月 1 日より 2018 年 12 月 31 日までの間に、生殖に関する登録施設にて体外受精をされた方

2 研究課題名

承認番号 20xx-xx

研究課題名 日本産科婦人科学会に登録された体外受精データから読み解く日本の体外受精治療の現状

3 研究実施機関

医療法人 浅田レディースクリニック 齋藤 將也

4 本研究の意義、目的、方法

<意義>

日本産科婦人科学会に登録された体外受精治療データを解析することにより、統計上世界最低となっている日本の体外受精における採卵あたりの出生率の原因を詳細に検討し、日本の生殖医療の問題点を浮かび上がらせ、今後の日本の生殖医療の発展につなげる。

<目的>

ICMART（国際 ART 監視機関）のデータでは、体外受精における採卵あたりの出生率は日本が

世界で最低となっている。しかし、日本の生殖医療レベルが世界で最低とは思われない。日本産科婦人科学会に登録された膨大なデータを詳細に解析することにより、日本の生殖医療の問題点を把握し、日本の正しい現状を確認する。

<方法>

日本産科婦人科学会の周産期登録データベースの項目の中から、卵巣刺激法または周期管理法から採卵数、受精卵数、移植胚数、凍結胚数の結果を解析し、さらに妊娠率、出産率の転帰についてデータ解析を行います。また、夫の年齢、精子回収法、精液所見もしくは妻の年齢、BMI、妊娠・分娩歴、などの成績に強く影響していると考えられる因子の有無について検討し、これを明らかとすることを目的とした研究を計画しています。

本研究を行うことで、現在の日本の生殖医療においてどの因子が妊娠、出産転帰に影響しているのかを明らかにし、生殖医療従事者が把握することで不妊治療患者によりよい治療を提供できると考えています。

5 協力をお願いする内容

本研究では、日本産科婦人科学会の周産期登録データベースに登録された情報のみを使用し、新しく協力をお願いする項目はありません。また、得られたデータを別目的に利用することはありません。

6 本研究の実施期間

研究承認後 ～ 2024年3月31日

7 プライバシーの保護について

本研究で取り扱う患者さんの情報は個人情報をすべて削除し、第三者にはどなたのものか一切分からない形で日本産科婦人科学会から提供され、使用します。患者さんの情報と個人情報を連結させることはありません。

8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方またはその代理人（ご本人より本研究に関する委任を受けた方など）より、情報の利用停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合は診療のために受診された施設へのご連絡をお願いいたします。

研究代表者

医療法人浅田レディースクリニック
齋藤 将也

TEL: (03) 3472-2663

FAX: (03) 3472-2664

Email: m2_saito@ivf-asada.jp

日本産科婦人科学会事務局

TEL: 03-5524-6900

FAX: 03-5524-6911

Email: nissanfu@jsog.or.jp